

質問事項「村長の進退について」にお答えします。

結論から申し上げますと、次の村長選挙に立候補するということでございます。少し時間をいただき、今回立候補するに至った思いなどをご説明いたします。

振り返ってみますと、村長に就任したのが平成29年3月で、就任当時は熊本地震による混乱の真っ只中であり、仮設住宅の用地交渉や様々な復旧工事は緒に就いたばかりで、住民への説明会や国・県への要望活動など、目まぐるしい日々でありました。

地震対応の最中、これに追い打ちをかけたのが新型コロナの流行でした。第1例目の感染者から数カ月でパンデミックと言われる世界的な流行となり、令和5年5月に「5類感染症」に至るまでのおよそ4年間はコロナに翻弄された期間でありました。

このような混乱期を迎えながらも、新阿蘇大橋の開通、南阿蘇鉄道の全線運転再開など、復旧復興は順調に進み、村民の暮らしも何とか落ち着きを取り戻しております。観光面でも概ね地震前の賑わいへと回復しており、最近では明るい話題も多くなってきたと考えているところです。

本年4月には二つの嬉しいニュースが飛び込んできました。一つは、熊日新聞社が初めて実施した道の駅総選挙で「あそ望の郷くぎの」が初代王者に選ばれたことです。そば道場移転や駐車場整備など年次計画で進めており、先送りにされていた会社統合問題も社員の皆様のご理解により解決することができました。人気ナンバーワンになりましたのも、社員をはじめ関係者の皆様のご努力の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

もう一つが、民間の有識者らで作る「人口戦略会議」の公表で、本村が「自立持続可能性自治体」となったことです。10年前は「消滅可能性自治体」だったのですが、様々な政策が功を奏したことに加え、村民の皆様のご努力により大きく数値を伸ばすことができました。若年女性の減少率は熊本県内で最も少ない数値であり、しかも前回「消滅可能」で今回「持続可能」となったのは全国1729自治体の中でわずか7自治体、もちろん県内では南阿蘇村だけでした。

このように明るい話題もありますが、村が抱える課題は依然として深刻であることを忘れてはなりません。出生率の低下・交通弱者買い物弱者の増加など、いわゆる超少子高齢社会を克服すべく対処していかなければなりませんし、農業面におきましても、担い手不足や荒廃地対策・鳥獣被害対策、加えて水張りができない水田に対する支援策など、課題は山積しています。さらに草原の維持再生は、県と阿蘇都市7市町村が進める世界文化遺産登録活動の面からも重大と考えます。足かせとならぬようにこれまで出来る限りの支援を行ってきましたが、村単独の施策だけでは限界を感じており、国・県への要望を強めたいと考えております。

他方財政面では、財政構造の弾力性を示す経常収支比率が一時期県内ワーストワンでしたが、村有財産の整理や職員数の適正化などが功を奏し、改善傾向ではありますものの財政健全化全般につきましてはまだまだ道半ばであります。また、近年の新たな取り組みであるSDGs未来都市認定やオーガニックビレッジ宣言におきましても、これからがいよいよ本番と考えております。

さらに、何と申しまして公営温泉施設の民営化です。隣接の三つの町村では公営温泉が廃止となっていますが、本村は一部を除き「廃止」ではなく「継続」を選択して進めています。この小さな村に温泉がどれだけあるのかと申しますと、お手元のパンフレット「南

阿蘇ロードマップ」をご覧ください。広げていただいて地図の下段にある「宿泊施設・温泉施設」の欄がありますが、施設の番号の左に温泉のマークが記載されており、数えてみますと16カ所あります。今後も村民だけでなく、観光客からも「温泉に行くなら南阿蘇村」となりますよう「廃止」ではなく「継続」を推進してまいります。現在は、瑠璃温泉が暗礁に乗り上げていますが、早急の解決に向け現在の温泉所有者様と連携して全力で取り組んでまいります。

最近村民からの要望で最も多いのがスーパーマーケット誘致です。先の議会で1600万円の調査費を可決いただきましたので、役場北側におきまして、用水や排水、また調整池などを調査しているところです。先方と協議のあと農地転用へと進みますが、面積が広いことから転用手続きなどに時間を要すると思われます。多くの村民の皆様が待ち望んでおられますので、早期の開業に向け尽力してまいります。

また、スーパーマーケット誘致に加え、農産物の加工工場の誘致を計画しており、すでに数社と前向きな交渉を行っているところです。道の駅周辺の適地に製造・加工販売・見学体験ができるような企業の誘致を実現したいと考えております。

次に、子育て支援の強化は引き続き行ってまいります、「子どもの遊び場」の要望に対して十分に答えきれていないのが現状です。L00Pみなみあその屋内に遊びスペースを設置、また屋外にも小規模でありますが遊具の設置を行います。さらに、立野ダム仮設備ヤード跡地に来年度公園を整備しますが、ここに遊具を設置します。規模は西原村総合体育館横にある遊び場をご想像ください。詳細につきましては議会最終日の全員協議会でご説明いたします。この場所とは別に、道の駅あそ望の郷のドッグラン専用駐車場の北側になりますが、芝生広場としての整備を予定しており、ここにもある程度の遊具を配置する計画です。また、白川水源周辺の適地にも子どもの遊び場を兼ねた水辺公園を整備する方向で進めております。

いくつかの具体策を申しましたが、これ以外の施策につきましては、これから作成するマニフェストに掲載いたします。内容につきましては村の総合計画にある「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村の実現」を踏襲し、3つのK、いわゆる「環境」「活力」「暮らし」を政策の柱として組み立てたいと考えております。マニフェストが村民の皆様の判断材料となりますように、なるべく早くお示ししたいと思っております。

まとめになりますが、これまでの二期は震災対応とコロナ対策、厳しい財政状況などが重なり、思うような施策に取り組むことができませんでした。三セク統合や温泉民営化などで経費を節約することが出来たので、残された施策を実現したいと思います。村を活性化するには投資も必要であります、財政健全化にブレーキがかからぬよう「節約」と「投資」をバランスよく進め、投資効果を十二分に考慮して様々施策を進めてまいります。

私の政治理念は「村政の基本は住民との対話である」であり、引き続き村民の皆様との対話を大切に、明るく住みよい村づくりに努めてまいります。当選を果たすことができましたならば、誠心誠意、村の振興発展のために死力を尽す覚悟でおります。

最後に、来年2月に南阿蘇村は合併して20年を迎えます。1月19日には記念式典を行います、熊本地震からの復興を祝い、更なる飛躍を誓う式典になれば、と考えております。議員各位のご協力を切にお願い申し上げます。

以上、今回の村長選挙に立候補することを表明して、答弁を終わります。